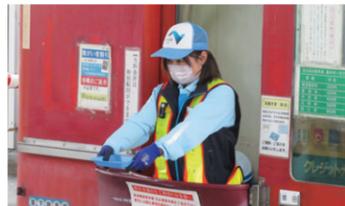


事業概要

高速道路事業

保全サービス事業

高速道路の点検、補修、料金収受、交通管理、
高速道路リニューアルプロジェクト、
耐震補強、災害復旧、その他の維持管理



料金収受



点検

建設事業

高速道路の新規建設、4車線化・6車線化、スマートICの新設



新名神高速道路 大津JCT~城陽JCT 新設事業



松山道 伊予IC~大洲IC 4車線化事業

関連事業

SA・PAの新設、改築、管理運営



新名神高速道路 宝塚北SA外観



関門道 壇之浦PA (下) 内観

その他事業

海外事業、不動産賃貸事業、芦有ドライブウェイの管理運営、トラクターターミナルの管理運営など



米国における赤外線技術での点検(海外事業)



Sinfaria YUZATO (不動産賃貸事業)

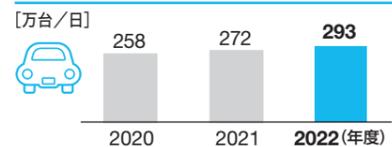


芦有ドライブウェイ パーベキュー施設

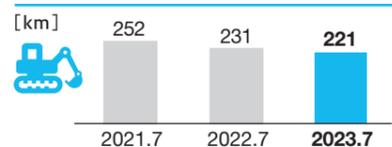
営業延長 3,603 km



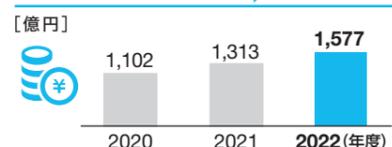
高速道路利用台数 293万台/日



建設中延長 221 km



SA・PA売上高 1,577億円



事業スキーム

当社は、日本道路公団の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。高速道路資産とその債務は高速道路機構[※]が保有し、高速道路会社各社は、高速道路機構から資産を借り受け、運営管理を担っています。

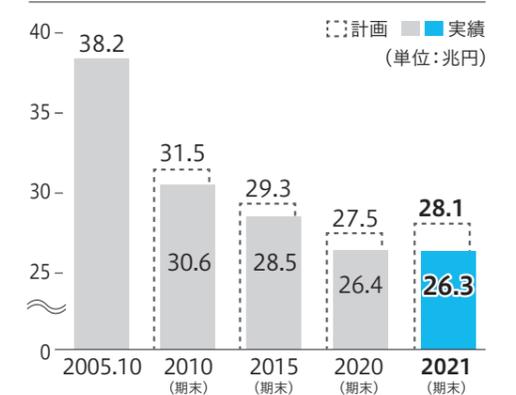
[※]「高速道路機構」：独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構

民営化の目的

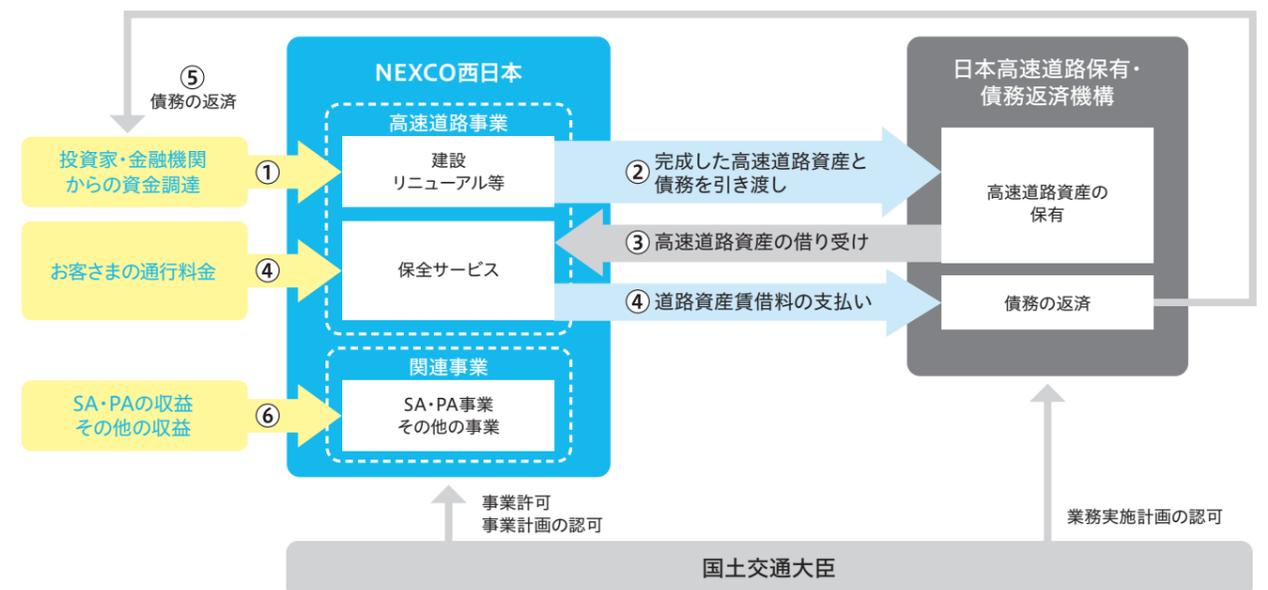
1. 旧道路関係4公団合計で、約40兆円にのぼる有利子債務を確実に返済すること。
2. 必要な道路を、会社の自主性を尊重しつつ、早期に、できるだけ少ない国民負担のもとで建設すること。
3. 民間企業のノウハウを発揮し、多様で弾力的な料金設定を実現し、お客さまに多様なサービスを提供すること。



高速道路機構の債務残高



[※] 全国路線網(NEXCO3会社)、首都高速道路、阪神高速道路、本州四国連絡高速道路、及び全国路線網以外の一般有料道路を含む



- ① 高速道路の建設・リニューアル等は、投資家・金融機関から調達した資金を原資に行います。
- ② 完成した高速道路資産は、事業費と同額の債務とともに、高速道路機構に引き渡します。
- ③ 高速道路会社は、高速道路機構から高速道路資産を借り受け、高速道路の通行料金の収受や維持管理等の保全サービスを行います。
- ④ お客さまから収受した通行料金は、保全サービスにかかる事業費及び高速道路機構への道路資産賃借料の支払いの原資となります。
- ⑤ 高速道路機構は、道路資産賃借料を原資として、投資家・金融機関へ債務の返済を行います。
- ⑥ SA・PA事業等の関連事業は、SA・PA事業等の収益を原資に、事業運営を行っています。

中期経営計画「進化2025」

近年の地球温暖化やデジタル技術の急速な進歩により、今後、高速道路に求められる機能や役割が大きく変化していくと考えられます。当社グループは、これらの経営環境の変化に柔軟に対応する「進化」を遂げることで、社会から求められる役割や使命を果たしていきたいと考えています。

本中期経営計画では、将来のありたい姿として5つのビジョンを示した上で、その実現のための重点施策を策定し、「進化2025」と題して、2021年度から2025年度までの5カ年において当社グループが取り組むべき計画を取りまとめました。現在、「進化2025」の実現に向け、グループ一丸となって取り組んでいます。

進化2025の詳細はこちら



経営環境の変化

高速道路	社会
<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路の老朽化の進行 ● 自然災害の激甚化・頻発化 ● CASE※1・MaaS※2の進展 ● 自動運転技術の向上・発展 ● 次世代自動車の普及 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5G※3大容量通信サービスの開始 ● AI※4やICT※5等の技術革新の進展 ● 少子高齢化の進行 ● ポストコロナ社会の新しい生活様式の定着 ● SDGs※6の取り組み 等

※1 Connected(コネクテッド)・Autonomous(自動化)・Shared & Service(シェアリング&サービス)・Electric(電動化)
 ※2 Mobility as a Service(サービスとしての「移動」) ※3 第5世代移動通信システム ※4 Artificial Intelligence(人工知能)
 ※5 Information and Communication Technology(情報通信技術) ※6 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)

進化2025における5つのビジョン

01
高速道路の安全・安心をいつまでも守り抜く

02
多発する自然災害から地域と暮らしを守り抜く

03
新しいモビリティ社会に向けて高速道路を進化させる

04
高速道路の顧客体験価値を高める

05 持続的に進化する企業を目指す

SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献します



重点施策

本レポートにおける関連情報ページ

01 高速道路の安全・安心をいつまでも守り抜く

- 点検補修の進化 P.13,14
- 大規模更新・大規模修繕の推進 P.15,16
- 交通安全対策の進化 P.17-20

02 多発する自然災害から地域と暮らしを守り抜く

- ネットワークの進化~ミッシングリンクの解消等~ P.21,22,26
- ネットワークの強化~暫定2車線区間の4車線化~ P.23,24
- 高速道路の強靱化~耐震性の向上~ P.12
- 災害対応力の強化 P.11,12

03 新しいモビリティ社会に向けて高速道路を進化させる

- 高速道路機能の進化 P.25
- 物流支援~休憩施設の充実~ P.29
- 料金所のキャッシュレス化・タッチレス化 P.27,28
- 道路情報提供の高度化
- 通信ネットワークの進化

04 高速道路の顧客体験価値を高める

- 新しい価値を提供するSA・PAの進化 P.29-34

05 持続的に進化する企業を目指す

- 高速道路を活用した地域貢献 各ページ
- 社員が活躍できる環境づくり P.39,40
- DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 P.10
- 環境に関する取り組みの推進~脱炭素社会に向けて~ P.35-38
- 海外事業の発展 P.44
- SDGs達成への貢献 各ページ

DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

道路公団民営化時と比較し約3倍となっている膨大な事業量に対応するため、グループ一丸となって、DXをはじめとした業務効率化・生産性向上を推進し、当社グループの企業価値の最大化を目指します。

DX戦略の詳細はこちら



NEXCO West ACE DXs

Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy.
 先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する

重点施策

① マインド醸成	グループ全社員の意識改革
② 基盤整備	DXに必要な環境整備
③ 人材育成	デジタル知識を活用できる人材の育成
④ 業務処理の効率化	業務効率化と自動化の実現
⑤ 業務・サービスの高度化	高速道路マネジメントの高度化